

千里の鳥・万博の鳥(第88回)「シロハラ・部分白化」(2020年2月)

シロハラはツグミと並んで冬鳥の中で最もポピュラーな鳥である。そのシロハラ・ツグミが今年は非常に少なく、理由はわかっていないが、多分雪国の近畿北部の日本海側や北陸地方などに雪が無く、木の実や地上の昆虫を採餌ができるため、南下していないと思われる。

そんな中、昨年確認されたシロハラ部分白化個体が、今年も万博公園内に渡ってきているという貴重な写真を紹介する。

写真2枚のシロハラは目先にまとまった白斑があり、目の周りから目の後方のほぼ同じところに白斑があるので、間違いなく同一個体と思われる。シロハラなど小鳥は、この一年の間に羽が生えかわった筈であるが、白化部分は同じ場所に白化状態のまま生えたらしい。

今から27年前(1993年)、万博公園で全身が真っ白なセグロセキレイの白化個体が観察されたことがあった。このセグロセキレイも一度は換羽している筈なのに、翌年も真っ白いまま確認された。しかも、連れていた幼鳥には白化の面影が全くない通常通りの個体で、親が白化個体であっても繁殖に影響がなかったことを確認した。

今回のシロハラ部分白化個体も、繁殖地では通常通りの子育てをして、越冬地に来たと思われる。シロハラの生息地は東アジアで、繁殖・子育て地は中国東北部～ロシア沿海地方にかけての地域で、繁殖地が冬になると雪や氷に閉ざされ餌が取れないので、温暖な日本や朝鮮半島、そして中国に南下し越冬する。シロハラが大阪近郊に来るのは11月頃、4月下旬までの約6か月間滞在し、繁殖地へ帰っていく。

万博公園で越冬するシロハラは、繁殖地と違って人の多い日本の公園にとまどい、人に気づかれないよう常緑クスノキの木などで実をついばんでいるが、木の実が無くなるころには人に馴れ、地上に降りてくる。やや暗い木の下に積もった落ち葉の中に、隠れている昆虫やミミズを探し、葉をひっくり返し始める。人が近づくと「キョッ キョッ」と特徴ある声で鳴いて飛び去るが、ほかのシロハラとのなわばりがあるためか、それほど遠くないところに降りて、また落ち葉をひっくり返している。

今回万博公園で確認されたシロハラ部分白化個体、生まれ故郷がどこかわからないが、シロハラの繁殖地域図から大阪近郊までの直線距離を求めると、繁殖地が近い中国東北部(旧満州)の南部であれば約1km、より北のアムール川河口付近であれば約2kmとなる。シロハラ白化個体がそんな遠距離から万博公園までピンポイントで渡ってきてく

れることを知ると、愛おしくなりいつまでも生きていてほしいと思う。

① 日本野鳥の会大阪支部主催

万博公園定例探鳥会(2020年2月)

1985年2月にスタートした万博公園探鳥会、今月で満35年になった。冬は鳥が一番多い季節、シロハラ・ツグミ・アトリなどの冬鳥や、シジュウカラ・カワラヒワなどの留鳥が、記念すべき探鳥会の参加者に顔を見せてくれることを楽しみに、園内を一巡する予定。

日時 2月8日(土)9:30～15:00頃

集合 万博公園自然文化園中央口

モノレール万博記念公園駅から徒歩5分

解散 日本庭園の予定

担当 足立道成氏他

持ち物 筆記具・名札・双眼鏡、弁当

服装 ハイキングと同じ。防寒に留意

参加費 大阪支部会員100円、非会員200円

他に、万博公園入園料260円が必要

② 吹田野鳥の会主催 安威川探鳥会

安威川にはカモの仲間、そしてサギ・カモメなどの種類が多く、オオジュリン・イソシギ・カンムリカイツブリなど、万博公園では観察できない鳥たちがいるので、それらの鳥を楽しむ予定。

日時 2月16日(日)9:00～14:00頃

集合 阪急京都線相川駅西口広場

解散 安威川沿いの摂津市新幹線公園付近

(大阪モノレール摂津駅へ徒歩約15分)

担当 有賀憲介氏他

持ち物・服装・弁当 万博公園と同じ

参加費 吹田野鳥の会会員0円・非会員200円

問い合わせ①②とも 090-6901-1425平(ひら)



種名：シロハラ部分白化個体

撮影日：2019年1月3日および12月13日

場所：万博公園

撮影者：有賀憲介